

平成29年度学生表彰規程に基づく被表彰者一覧

1. 学生表彰規程第2条第1号イによる表彰(学術研究活動において、国際的規模又は全国的規模の学会から賞を受けたもの)

氏名	所属学部等	学会・競技名等(開催・表彰日等)	表彰理由
スエムネ カズキ 末宗 和樹	医学部医学科 5年	学部学生ポスター賞最優秀賞 (2017.4.29) 日本病理学会第106回総会	候補者は医学部医学科入学時より開始される医学研究実習である新医学研究コース(1年次)、基礎配属実習1, 2(2年次)、医学研究1(3年次)、医学研究2(4年次)、医学研究3(5年次)を継続して選択し、病理学分野において腫瘍関連マクロファージから分泌されるケモカインCCL2の食道扁平上皮癌浸潤、増殖における役割を自ら解析・研究し、その成果を一般社団法人日本病理学会第106回総会(平成29年4月29日)において発表したところ、全国から発表された105題の中から学部学生ポスター賞最優秀賞を受賞した。 【補足説明】 日本病理学会:1911年設立 病理に関する全国的規模の学会。会員数4000名超。病理学の研究とそれにもとづいた医療における実践の振興・普及をはかり、同時に、その活動には学問の発展と人類の福祉に貢献する。
カワイ ユウタ 河合 佑太	理学研究科 (地球惑星科学専攻) 博士課程後期課程 3年	学生発表賞(2017.10.15-10.19) 地球電磁気・地球惑星圏学会第142回講演会	候補者は、地球流体力学の研究と数値モデルの設計・実装に根気強く従事し、博士後期課程では地球型惑星の気候多様性を考察するための大気海洋水床結合系大循環モデルをほぼ独力で構築、独自の発想による簡略な設定(軸対称性を仮定した海惑星)を導入することで計算の効率化を行い、太陽定数依存性を網羅する膨大なパラメータ数値計算を実現し、その気候状態を分類整理した。この研究はSGEPSS(地球電磁気・地球惑星圏学会)の第142回講演会((2017年10月15日-10月19日::京都))にて「全球海惑星気候の太陽定数依存性の研究:海洋大循環の影響の考察」として発表され、学生発表賞(オーロラメダル)を受賞した。 【補足説明】 地球電磁気・地球惑星圏学会:1942年設立 会員数607名 地球電磁気学および地球惑星圏科学に関連する学術、ならびにその応用技術の進歩に寄与することを目的とします。
イノウエ アスカ 井上 飛鳥	工学研究科 (電気電子工学専攻) 博士課程後期課程 2年	Young Scientist Award(2017.5.22-26) European Materials Research Society 2017 Spring Meeting	候補者は、ヨーロッパで開催されるマテリアルサイエンス関係の学会の中で最大規模の学会であるEuropean Materials Research Society 2017 Spring Meeting (Strasbourg, France) (26のシンポジウムからなり、参加者3000人以上)において、「Surface Plasmon Enhanced Photoluminescence from Silicon Quantum Dots Monolayer」という題目で口頭発表を行った。候補者の発表は非常に高く評価され、発表を行ったシンポジウムにおいてYoung Scientist Awardの候補者にノミネートされた。その後、4名の審査員(University of Freiburg (Germany), University of New South Wales (Australia), TU Dresden (Germany), Arizona State University (USA)に所属)によりノミネートされた7名に対して口頭試問(20分)を行い、2名の受賞が決定した。受賞により、賞状に加えて賞金450ユーロが授与された。尚、発表を行ったシンポジウムの口頭発表への投稿数は148件であり、内51件が採択された。学会全体の受賞人数は40名程度であり、日本人の受賞は候補者のみであった。以上の業績により、学生表彰候補者として推薦します。
イシカワ アイ 石川 歩惟	システム情報学研究科 (計算科学専攻) 博士課程後期課程 1年	論文賞(理論部門)(2017.9.7) 日本応用数理学会	候補者は、執筆した論文「ハミルトン方程式に対する離散勾配法のRiemann構造不変性(日本応用数学会論文誌 Vol.26, No.4, pp.381-415, 2016)は2017年9月に日本応用数理学会から論文賞(理論部門)を受賞した。日本応用数理学会は、数理学とその産業応用に関する全国的規模の学会であり、本論文賞は当該論文誌に掲載された過去3年間の理論部門の論文(20編)のうち、最優秀と評価された論文1本のみが受賞する、権威あるものである。この業績により、当学生を、学術研究活動において、全国的規模の学会から極めて高いレベルの賞を受けたものとして認め、学生表彰規程に基づく被表彰者として推薦する。 【補足説明】 日本応用数理学会:1990年設立 会員数約1500名 学界産業界における応用数学あるいは数理工学の研究と実践を含む応用数理に関する学問研究の興隆をはかり、会員相互間および関連学協会との交流の場を提供し、我国の応用数理にかかわる学問および産業の向上発展に貢献するとともに、この領域の教育の振興と研究成果の普及をはかり、国際的活動を通して、世界のこの分野の進歩に貢献することを目的とする。
クスモト タモン 楠本 多聞	海事科学研究科 (海事科学専攻) 博士課程後期課程 3年	優秀賞(若手ポスター発表部門) (2017.9.29) 第60回放射線化学討論会	候補者は、2017年9月27日から29日にかけて、産業技術総合研究所つくばセンターで開催された第60回放射線化学討論会において優秀賞(若手ポスター発表部門)を受賞した。当討論会は日本放射線化学学会が毎年開催している全国規模の学術集会である。発表タイトルは『低エネルギー電子のカルボニル基やエーテル基を含む単量体への影響』であり、ストラスブール大学(仏)及びシエルブルック大学(加)との共同研究の成果であった。昨年度の学生優秀講演賞に続く受賞である。ストラスブール大学とはコチュエル(博士共同指導)を進めており、国際共同研究を主体的に担っていることをここに特筆する。

氏名	所属学部等	学会・競技名等(開催・表彰日等)	表彰理由
ルドゥフィー プラティウィ ボウォ LUDFI PRATIWI BOWO	海事科学研究科 (海事科学専攻) 博士課程前期課程 2年	Excellent Paper Award(優秀論文賞) アジア航海学会(ANC2017/Asia Navigation Conference 2017)	候補者は、2017年11月25日、広東海洋大学(湛江市・中国)にて開催されましたアジア航海学会(ANC2017/Asia Navigation Conference 2017)において、Excellent Paper Award(優秀論文賞)を受賞しました。発表件数は、日本14編、韓国17編、中国29編、タイ2編の計62編。最優秀論文賞1件は、開催国の中国から選ばれ、日本と韓国から各1編の優秀論文賞が授与されました。
クボ ユウイチロウ 久保 雄一郎	人間発達環境学研究科 (人間発達専攻) 博士課程前期課程 2年	スポーツ庁長官賞(2017.7.15) 日本スポーツ産業学会 第26回大会	候補者は、2017年7月15日(土)に立教大学で開催された「日本スポーツ産業学会」第26回大会で、「スポーツ庁長官賞」を受賞した。「VR映像(仮想現実)」と「EMS(Electrical Muscle Stimulation)」による筋肉への電気刺激を活用した新しいトレーニング法を提案し、その着想が評価された。また、提案内容がアスリートなどのハイパフォーマンス分野と健康増進分野など応用範囲が広いことも評価された。スポーツ・健康産業における日本最大の展示会SPORTEC 2017に展示されている。現在、企業と製品化に向けた協議を重ねており、神戸大学学生表彰に値すると思われる。
フジムラ ヒナコ 藤村 日向子	人間発達環境学研究科 (人間環境学専攻) 博士課程前期課程 1年	優秀卒業論文賞(2017.8.31) 日本建築学会	候補者は、「子供の貧困と住宅-低所得子育て世帯の住まいの選択と実態-」に関する卒業論文が、独創的で社会的意義が高いと評価され、2017年日本建築学会優秀卒業論文賞を受賞した。これまで主に社会学の分野で研究されてきた「子どもの貧困」に関し、住宅問題の分野からアプローチした点にこの研究の独自性がある。日本建築学会は、3万5千人以上の会員を擁する巨大会で、本性は容易に得られないものである。候補者は、現在イタリアに留学し、国際比較の視点から研究を発展させようとし、また専門誌にも依頼原稿を書くなど、卒業研究の経験を土台とし、さらなる飛躍をめざしている。

2. 学生表彰規程第2条第2号イによる表彰(公認課外活動団体の活動において、国際的規模の競技会等において優秀な成績を修め、又は高い評価を受けたもの)

◎個人

氏名 (団体名)	所属学部等	表彰理由
ゴンドウ マミ 権藤 眞美 (女子ラクロス部)	海事科学部 4年	国際ラクロス連盟主催第10回FIL女子ワールドカップ日本代表選手に選出され、参加25カ国中、9位の成績を収めた。

◎団体

団体名	表彰理由
オフショアセーリング部	フランス・マルセイユで開催されたStudent Yachting World Cup 2017 で優勝した。(参加9チーム)

3. 学生表彰規程第2条第2号口による表彰(公認課外活動団体の活動において、全国的又は地区的規模の競技会等において優秀な成績を修めたもの)

◎個人

氏名 (団体名)	所属学部等	表彰理由
ホリバ ユウエイ 堀庭 裕平 (空手道部)	発達科学部 3年	第72回国民体育大会・空手道競技。成年男子形(かた)の部に於いて準優勝、また、第61回全日本学生空手道選手権大会男子個人形(かた)の部第3位の成績を収めた。
フジマ ノゾミ 藤沼 望 (卓球部)	文学部 4年	関西学生卓球連盟主催第51回会長杯争奪卓球大会シングルス戦で優勝した。また、第57回全国国公立大学卓球大会ダブルス戦準優勝を果たした。

◎団体

団体名	表彰理由
女子タッチフットボール部	第26回東西大学王座決定戦「プリンセスボウル」で4年連続優勝を果たし、さらに第23回全日本王座決定戦「さくらボウル」でも勝利し、4年連続日本一となった。
フットサル部	オービットカップ第2回関西学生フットサル選手権で優勝し、また第2回関西学生フレッシュマンカップ優勝を果たした。
放送委員会	第34回NHK全国大学放送コンテスト映像番組部門において35作品中、第1位を獲得した。

4. 学生表彰規程第2条第2号ニによる表彰(卒業年度に当たる者で、在学中の課外活動において特に顕著な功労があったもの)

◎個人

氏名 (団体名)	所属学部等	表彰理由
タラ コウキ 多田羅 光樹 (カヌー部)	発達科学部 4年	過去3年連続で学生表彰を受けており、長距離種目で全国規模の大会で好成績を残しており、特に3年次にはカヌーマラソン世界選手権大会に出場した実績をもち、4年次には主将を務め後輩の指導や部の運営に努めた。
キタヤマ ナオ 北山 菜生 (女子タッチフットボール部)	発達科学部 4年	昨年度3年次に同部主将、選手としてプリンセスボウルとさくらボウル3連覇に導き、今年度も両大会4連覇に貢献した。

5. 学生表彰規程第2条第4号による表彰(特に優れた業績、功績等があったと認められるもの)

氏名	所属学部等	学会・競技名等(開催・表彰日等)	表彰理由
タカハシ カズヒロ 高橋 一紘	法学研究科 (実務法律専攻) 専門職学位課程 3年	人命救助	候補者は、平成29年10月4日(水)午後3時30分頃、六甲台第1キャンパス法科大学院自習棟1階自習において自習をしていた学生A(法学研究科専門職学位課程実務法律専攻在籍)が、突然痙攣を起こし、意識不明となり心肺停止(と思われる)状態となった際に、現役学生の修学サポート等のため同室を訪問していた修了生2名と協力し、学生Aに対して心肺蘇生などの救護措置を行った。学生Aが痙攣を起こしていたため、心肺蘇生のため気道を確保することも非常に困難な状態であったが、3名で協力して心肺蘇生を続けた結果、やがて意識が戻り、救急車到着時には完全に意識が戻った状態になった。学生Aは搬送先の救急病院で検査を受け、10月6日(金)には退院することができた。上記のとおり、候補者による学生Aへの適切な救護措置と救命に寄与された功績は誠に顕著であることから、学生表彰にふさわしいと認められると考える。なお、協力した修了生2名に対しては、学長からの感謝状が贈られている。
ササキ ジュンヤ 佐々木 純哉	文学部人文学科 2年	第9回グレンツェンピアノコンクール全国大会金賞(2017.6.25)	候補者は、権威のあるグレンツェンピアノコンクール第9回全国大会の大学・一般コースにおいて、金賞(最高位)を獲得したことによる。予選と本選、いずれにおいても、もっとも高い評価を得たことも大きな評価に値する。 【補足説明】グレンツェンピアノコンクールは、全国65カ所で行われる予選から始まり、全国大会まで1年をかけて開催されます。課題曲はバロックや古典、様々なジャンルから選曲されます。グレンツェンピアノ研究会という鹿児島県に本拠地を置く組織が主催です。
コモリ ユウタ 古森 悠太	経済学部経済学科 4年	日本将棋連盟4段昇格(プロ棋士)	候補者は、日本将棋連盟で奨励会会員として研鑽を積んできましたが、本年9月に4段に昇格し、プロ棋士としての活躍を始めました。現役大学生がプロ棋士になることは珍しく、神戸大学の評価を高めました。
ヤマモト ノブヒロ 山本 修大 ツカゴシ マサキ 塚越 仁貴 クス ミツハ 楠 満葉 ヨネクラ リョウスケ 米倉 良輔	工学研究科博士課程前期課程(建築学専攻) 1~2年 工学部建築学科4年	最優秀賞(2016.8.17) JR元町駅東口前「まちなか拠点」整備イメージ提案募集	神戸市主催の実施コンペに置いて最優秀賞に選ばれた。このコンペは実施コンペであり47の作品は寄せられ、専門家の審査により当該学生の作品が最も優秀であると評価された。実施コンペにおいて選定される事は極めてまれなことであり、その実力が高いことを示している。
サタケ ショウヘイ 佐竹 翔平	システム情報学研究科(情報科学専攻) 博士課程後期課程 1年	・Graphs and Combinatorics掲載 ・理学部数学談話会(近畿大学)での基調・特別講演 ・日本学術振興会特別研究員(DC2)内定等々	候補者の研究の基盤は、組合せ数学におけるグラフの「対称性」の研究にある。候補者は、確率論、数学基礎論などの組合せ数学とつながりの見えにくい分野の手法に着目するという独自の手法で、これまでにグラフの対称性の尺度の一つである自己同型の研究で顕著な業績を挙げており、組合せ数学のトップジャーナルGraphs and Combinatorics等で成果が認められている(履歴書p.2, (7)-2))。また、候補者は、課程組合せ数学の国際会議において既に何度も口頭発表(すべて査読有)をこなしており、学生ながら近畿大学の理学部数学談話会での基調・特別講演の実績もある(履歴書 p.2, (8)-1, (8)-2)。さらに、今年の11月には、組合せ数学と(数学基礎論の一分野である)モデル理論との合同セミナーを主導的に立ち上げるなど(履歴書p.2, (5))、その積極的な姿勢には目を見張るものがある。このように、候補者は、組合せ数学と周辺分野にまたがる新進気鋭の若手研究者の一人として注目を集めており、来年度からJSPSの特別研究員DC2にも内定している(履歴書p.2, (6)-1)。性格は温厚で、研究室内の後輩学生の指導補助など面倒見のよい一面もあり、好感度のもてる人物である。以上の理由から、神戸大学学生表彰候補者として推薦する。